

比美乃江



あいさつの大切さ

「北部中学校区小中連携あいさつ運動」

今年度の本校のアクションプランの1つに

「進んで挨拶をしていると答える児童が80%以上」があります。

比美乃江小学校では、進んであいさつができる児童を育てたいと考えています。

6月19日(水)に小学生と中学生と一緒にあいさつする「北部中学校区小中連携あいさつ運動」を比美乃江小学校で実施しました。この「あいさつ運動」の目的は、小学生と中学生が共にあいさつ運動を行うことで、交流の輪を広げ、あいさつのよさを実感する機会とすることです。

さらに、重点目標として

① 顔を見て、笑顔で、さわやかなあいさつをする。

② 小学生と中学生の心をつなぐあいさつをする。

を設定しました。

あいさつ運動には、北部中学校の3年生9名に来てもらい、比美乃江小学校の子供たちと一緒に玄関前に立ちました。登校する子供たちに小学生も中学生も「おはようございます」と元気な声であいさつしました。



このあいさつ運動には、たくさんの本校の子供たちが参加し、児童玄関は大きな声のあいさつであふれていました。

さて、「あいさつ」にはどんな意味があるのでしょうか。

また、「あいさつ」は、なぜしなければいけないのでしょうか。

「あいさつ(挨拶)」の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近づくという意味があります。つまり、「あいさつ」とは、まず自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていくということなのです。まず、自分の心を開くのですから、自分からしなければいけないのです。

「あいさつ」は、人間関係をスタートさせるための大切な言葉なので、相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めて「あいさつ」をすることが大切です。自分では「あいさつ」をしたつもりでも、小さい声では、相手にきちんと伝わる「あいさつ」とは言えません。

比美乃江小学校の子供たちには、ぜひ、進んで「あいさつ」ができるようになってほしいと思います。

保護者の方々からも、お子様にあいさつの大切さについて、お話いただけるとうれしいです。よろしくお願ひいたします。

過去の新聞にこのような記事がありました

天地人

学校帰りの小学生だろう。大きなランドセルを背負った小さな男の子だった。交差点の横断歩道で擦れ違ふと、「こんにちは」という元気な声が飛んできた。少しびくつきながらも「こんにちは」と返したが、心の中をさわやかな風が吹き抜けたようすがすがしい気持ちになった。氷見市の街中でこの体験である。男の子に特別なことをしている様子はなく、いつものあいさつを当たり前のように行っている感じだった。軽やかに走り去った後ろ姿を見ていたら、映画のロケで氷見に滞在していた俳優がこんなエピソードを話していたことを思い出した。▼仕事先でも毎朝の日課にしているジョギングに出ると、通り掛かった子どもたちが、見知らぬ私に「おはようございます」とあいさつする。都会では信じられないことであり、すごく感激したという。

(2019.7.7 北日本新聞から)

この記事は、2019年に地域の方から、「比美乃江小学校の子供のことだと思えますよ」と言われ、学校にいただいたものです。

▼通学途中の子どもたちが襲われたり、交通事故の巻き添えになったりするなど悲惨な出来事が相次いでいる。見知らぬ大人が子どもに下手に話し掛けたら、不審な声掛けとして警察に通報されかねない。物騒な世の中でもある。それだけに氷見の子どもたちの屈託のないあいさつに、まるで別世界に来たような強い印象を受けたのだらう。▼心地よいあいさつは、人と地域を幸せにする。魔法の言葉である。そのことを、氷見の男の子の自然な振る舞いに改めて教えられた。

こんな子供が増えたら、どんなにうれしいことでしょう。本校の教職員は、子供たちが学校や家庭、地域において、進んであいさつができる優しい心をもった人に育ててほしいと願ひ、指導をしています。